

第5分科会 「豊かな人間性」 運営概要

【研究課題】 豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方

【研究の視点】 1. よりよい社会を創る人権教育の推進

2. 豊かな心を育む道徳教育の推進

I 分科会研究協議の運営計画

グローバル化が進んでいる現在、様々な価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きていくことや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人々の幸福や持続可能な社会の実現を図ることが一層重要となる。このような時代の中で、子どもたちには、自らを律しつつ、自己を確立し、他人を思いやる心や感動する心をもつ豊かな人間性を備えた人として育ち、自分らしく主体的に生きていける教育を推進していくことが求められている。

学校には、豊かな人間性と未来を切り拓く力を育む教育活動を展開していくことが求められている。その基盤となるのが、人権教育であり、道徳教育である。

人権教育については、子どもたちに人間と生命の価値を自覚し尊重することや、人と調和して共に生きること、人の痛みや思いに共感することなどを育むことを教育活動全般の中で進めていくことが必要である。

また、道徳教育については、自立した一人の人間として、人生を他者とともによりよく生きる人格を形成することを目指すものであり、子どもたちが夢や希望をもって未来を拓き、人間としてよりよく生きようとする力が育成されるよう指導の一層の充実を図っていかなければならない。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、道徳教育や人権教育など心の教育に関わる教育実践を推進するとともに、家庭や地域等と連携・協働した取組を実現し、人間性豊かな日本人を育成するためのカリキュラム・マネジメントの具体的方策と成果を明らかにする。

視点1 よりよい社会を創る人権教育の推進

- ・子どもたち自身が互いに認め合い、豊かな人間関係を構築していくために教育活動全体で取り組む人権教育の推進
- ・学校・地域の実態に即した、社会を生き抜くために必要な人権感覚を育むための家庭や地域社会との連携・協働の在り方

視点2 豊かな心を育む道徳教育の推進

- ・子どもたちに育むべき道徳性の内容を的確にとらえ、豊かな心を育成する道筋を踏まえた教育活動を展開するための多様で効果的な指導方法の工夫
- ・家庭・地域と連携しながら、規範意識や自尊感情を高め、夢や希望をもって未来を切り拓き、よりよく生きることのできる力を育む道徳教育の推進

II 昨年度までの成果・課題 ～平成29年度 全連小 佐賀大会より～

〔成果〕

- ・児童や学校、地域の実態を適切に把握し、学校の特色、よさを生かして、小中や幼保小で連携した取組が有効であった。【**学校の特色、よさを生かす取組**】
- ・教育内容、活動内容の全体計画の作成するに当たり、横断的で組織的な配列をし、体験的な活動を通して豊かな心、人権感覚を育てることができた。【**教育内容、活動内容の全体計画の作成**】
- ・校長として明確なビジョンを示したり、職員のアイデアを出し合わせたりすることで、職員の参画意識や実践意欲を高めることができた。【**職員の参画意識高揚や組織の活性化**】

〔課題〕

- ・各学校が育成をめざす資質、能力を学校教育目標として具体化し、教職員や家庭、地域に発信することで意識や取組の方向性を共有していくことが重要である。【**学校経営ビジョンの明確化**】
- ・各学校の特色を生かした教育内容の質の向上のために、教育課程にそった教育実践の進捗状況を振り返り、活動のねらいや内容の見直しが必要である。【**教育課程の実施状況の評価と改善**】
- ・子どもたちが多様な人々とのつながりを保ちながら学べるよう、学校が地域社会とのつながりを意識し、地域の学びや子育ての核となることが重要である。【**「社会に開かれた教育課程」の実現**】

Ⅲ 研究発表の概要

視点1 よりよい社会を創る人権教育の推進

◇研究発表者 島根県 川本町立川本小学校 高尾 康弘
人権教育の推進を通して豊かな心を育むための校長の役割

◇発表の概要

「島根がめざす人権教育」を基盤として人権教育を推進するために、校長会で計画的に研修を積み重ね、研修成果を各校で実践研究することで、豊かな人間性を育む校長の役割を明らかにする。

視点2 豊かな心を育む道徳教育の推進

◇研究発表者 北海道 北見市立錦水小学校 小野寺 哲浩
豊かな人間性を育む教育課程の編成・実施と校長の指導性

◇発表の概要

「豊かな人間性を育む教育課程の編成・実施と校長の指導性」に焦点を当て、カリキュラム・マネジメントの3つの側面に基づいて調査研究・実践研究を行い、道徳教育の充実のための校長の果たすべき役割を明らかにする。

Ⅳ 討議の流れ（13：00～16：30）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 開会・担当者紹介（5分） | 6. 休憩（10分） |
| 2. 趣旨説明（10分） | 7. グループ討議（65分） |
| 3. 研究発表①②（40分） | 8. 全体討議（40分） |
| 4. グループ討議（15分） | 9. まとめと今後の課題（8分） |
| 5. 全体討議（15分） | 10. 閉会・連絡（2分） |

Ⅴ 討議の柱

視点1 よりよい社会を創る人権教育の推進

- ①教育活動全体を通して、人権教育を推進するための取組の評価・改善に向けた校長の関わりはどうか。
- ②人権教育についての教職員の意識向上に向けた校長の関わりはどうか。

視点2 豊かな心を育む道徳教育の推進

- ①教育活動全体を通して、道徳教育を推進するための取組の評価・改善に向けた校長の関わりはどうか。
- ②「考え議論する道徳」への授業改善に向けた取組を充実するための校長の関わりはどうか。

Ⅵ お願い

◆視点1・2の討議の柱に関わって、校長の関わり（役割・指導性）についてお考えをもって参加されるようお願いいたします。

～自校の現状や成果と課題について、キーワードやキーセンテンスで～

- ◆できましたら、人権教育や道徳教育についての学校の全体計画や指導計画など、話し合いに活用できる資料があれば、グループの人数分（6枚程度）をご持参ください。
- ◆グループ内で名刺交換を行います。名刺をグループの人数分（6枚程度）ご持参ください。
- ◆グループ編成及びグループ討議の司会・記録につきましては、後日、北海道小学校長会ホームページに分科会参加者名簿（座席表）を掲載しますのでご確認ください。司会・記録を担当していただく方につきましては、当日のグループ討議の進行・記録をよろしくお願いいたします。